

## 学校規模等適正化に関する説明会（中宮北小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 6 月 26 日（日） 午前 10 時から午後 2 時まで
2. 場 所 中宮北小学校 体育館（参加者 117 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、田中主任、廣瀬
4. 内 容

（質問 1）

意見募集の方法はどんな方法で行ったのか。

（回答 1）

昨年 12 月に実施した市民アンケートの意見募集の周知方法については、ホームページ及び広報ひらかたに掲載するとともに、アンケート用紙を市役所の庁舎本館、別館、各支所、生涯学習市民センターに備え付けました。また、あわせて学校を通じて、保護者の方々へ通知文をお渡ししました。

（質問 2）

新しく中宮北小ができた時に説明会を開催したと思うが、どんな意見が出たのか。

（回答 2）

意見の内容につきましては、書庫内を探してみましたが、文書の保存年限からも会議録等の資料を探し出すことはできませんでした。

（質問 3）

対象となる学校の見学会等があればもっとわかると思うので、現地を見て確認する機会を与えて欲しい。

（回答 3）

学校長の了解を得た上で、可能な限り実施していきたいと考えています。

（質問 4）

お金のことが一切触れられていない。それをはっきりと表に出していただいた方が考えやすい。

（回答 4）

審議会では学校配置等の適正化によって、教育環境の改善を図ることを第一義に検討していますので、コスト面については検討項目とはされていません。

なお、小中学校 1 校あたりの運営経費についての質問がなされたことがあります。

（質問 5）

小規模校の良い点もある。という視点で議論しないと、小規模校は交友関係が固定的で中身のある人間が育たない。いくら質問しても同じような答えしかかえってこないということになり議論にならない。

（回答 5）

小規模校については、デメリットだけでなく当然メリットもあります。このことを踏まえつつ審議会においては、デメリットの部分について、子どもたちへの影響が大きい

ことから、解消する必要があるものと考えられたものです。

(質問6)

少子化時代の教育のあり方について、統廃合を進めるのではなく、教育をどうすべきなのかという点で検討される方が良いのでは。

(回答6)

教育方法の工夫（少人数習熟度別クラス編成によりきめ細かな指導の実施、縦割りの異学年交流、複数の学年や全校による多彩な行事等）により、対応できる部分もあると考えますが、今後の児童生徒数の将来推計から抜本的な解決方法には至らないことから、学校統合を基本に提言がまとめられたものです。

(質問7)

今、教室数が足りるか、足りないかという視点だけで、高陵小へ統合ということになっている。子どもや家族がどういう影響を受けるのかという目線や発想が、答申全体から少ないように感じる。

(回答7)

適正化の方策については、保有教室数の不足数だけでなく、通学距離や通学路の安全性の確保など、5つの視点により総合的に判断を行い、高陵小の敷地へ統合校を設置する事が望ましいと提言されたものです。

(質問8)

統合は一体何のためにやるのか。という趣旨を市がきちんと説明する義務があると思う。

(回答8)

今回の説明会は、審議会の答申における学校統合の趣旨や考え方をお伝えするために開催させていただいたものです。

(質問9)

中宮北小と高陵小を統合して、高陵小の敷地に設置するという意見が覆ることがあるのか。しっかりと議論をして、その結果結論を変えることが可能となる説明会なのか。

(回答9)

基本的に答申を尊重していく必要があると考えますが、今回の説明会において、皆様からいただいた様々な意見等も踏まえ、学校規模等適正化に関する基本的な方針をとりまとめていきたいと考えています。

(質問10)

地域の歴史的な経緯については、子どもの学びに関係ありません。その見解をお聞きしたい。

(回答10)

審議会においては、適正化の方策について、学校規模や施設規模など、5つの視点により総合的に判断しており、学校の沿革や地域の歴史的経緯についても、重要な要素の一つであると考えています。

(質問 11)

高陵小に統合するとなれば、高陵小を改修なり、長寿命化を行うことになるが、2年間高陵小の児童を中宮北小へ通学させて、工事が完了したら新しい高陵小へ移すというようにおっしゃっておられます。中宮北小は教室数が足りないのに、どうやって児童を移すのですか。仮設教室を建てるのですか。中宮北小を統合校として改修を行えば、仮設教室は要りません。コストの面また多い人数(児童数)がわざわざ少ない方(児童数)へ移るということも踏まえて、この方策を再検討するということはあるのでしょうか。

(回答 11)

ご指摘の件につきましては、方策の一つとして可能性はあるものの、確定されたものではありません。なお、中宮北小を仮に統合校といたしましても、現在の高陵小の未使用教室は老朽化が進行しており、使用するための整備費が必要となります。また、今回の説明会において、皆様からいただいた様々なご意見等も踏まえ、学校規模等適正化に関する基本的な方針をとりまとめていきたいと考えています。

(質問 12)

(校区)面積、坂の上と下の児童の推移など、判断できる資料を出して下さい。高陵小は安全だという話があったが、今後想定外のことが起きても大丈夫なのか。崖が崩れて危ないということだけではなくて、子どもの安全を第一に考えていただきたい。通学が難しいということであれば、通学バスを出したらいかがですか。

(回答 12)

ご指摘の内容(校区面積、坂の上下の児童数推移)については、必要な資料(別添資料1, 2)により回答します。また、高陵小西側の法面については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」の指定に該当するような急な斜面ではなく、安全性については確保できているものと判断しております。想定外の事態については、明確にお示しすることは難しいところですが、課題として考える必要があると思います。また、他の通学児童の安全確保などの課題があることから、送迎バスの導入については予定していません。

(質問 13)

小学校は避難場所としての役割が大きいと思う。崖などのある安全でない高陵小側へ避難しなければならない。移動のこともあるし、安全面として怖いという思いがある。

(回答 13)

枚方市では、市内45小学校全てが避難所になっています。仮に高陵小に統合校ができた場合、その跡地の活用に関しましては、避難所の在り方も含めて皆様のご意見もお聞きしながら、決めていかなければならないと考えております。

(質問 14)

5つの視点を総合的に考えて高陵小へという結論になったということだが、その中身を知りたい。

(回答 14)

5つの視点に関しましては、まず、①学校規模の視点として、適正範囲の学級数や適正規模を外れる場合、また、適正規模となる見込みの時期、住宅開発の動向などについて検討されています。次に、②施設規模の視点として、保有教室数を確認した上で受け入れ教室が不足する場合の増築等の可能性や小・中学校基準に定められている校舎及び運動場面積などについて検討されています。次に、③通学区域の視点として、最長通学距離の確認や通学時の児童生徒の動線が不自然な通学様態になっていないか、また、自転車通学やバス通学等の必要性と実現可能性や通学路の安全性の確保などについて検討されています。次に、④小中連携の視点として、中学校区との接続関係や統合後の中学校の学校規模、また、小中一貫教育への対応について検討されています。最後に、⑤地域連携として、学校と地域との連携の確保や学校の沿革などについて検討されています。審議会においては適正化の方策として、これら5つの視点を総合的に判断し検討されています。

(質問 15)

中宮北小が、できる限り早期にという理由を教えてください。

(回答 15)

高陵小につきましては、現在1学年に1学級、また、中宮北小につきましても11学級であり、両校とも既に小規模学校となっていることから、実施時期については「できる限り早期」とする必要があるものと提言されました。

(質問 16)

説明会は随時開催していただきたい。顔と顔を突き合わせて、説明会をその都度やってじっくりと考えていきたい。

(回答 16)

今回の説明会は、保護者や地域の方々とのコミュニケーション不足により、答申の内容を誤ったものと捉え不安視されている現状がありましたので、これらを解消することも目的の一つでした。今後も引き続き、皆様方と対話のできる場を設けながら、積極的に情報の共有化に努めてまいります。

(質問 17)

小規模校だから、統合ありきということで、みんなの意見は聞くけれども、もう既に決まっているんだというように感じている。我々がいくら言っても何も聞いてはくれないと心配しています。

(回答 17)

今後も答申の内容を適切にお伝えするとともに、保護者や地域の方々との対話を重ね、その中で頂いた様々なご意見等を参考にしながら、今後、学校規模等の適正化に関する基本的な方針を取りまとめていきたいと考えています。

(質問 18)

高陵小は法面の工事が終わって安全だというお話があったが、強い風が吹き上げてくる地形だ。安全面について考慮されたのか。

(回答 18)

高陵小において地形等の理由により、学校運営が困難となるような状況は生じていません。法面から吹き上げる風については、万全の対策を講じてまいります。

(質問 19)

教育委員会としてどういうふうに答申を受け止めて、どういう議論を経て、方針をとりまとめようとしているのか。

(回答 19)

学校規模等に関する適正化の基本的な方針につきましては、今回の説明会により皆様方から頂いた様々なご意見等を参考にしながら取りまとめていく予定です。なお、基本方針策定にあたっての皆様方との共有化の方法につきましては、今後の課題として検討していきます。

(質問 20)

学校とは、子ども達にとっても地域にとっても、安全安心な場所であるという原点に立って議論をしていただきたい。

(回答 20)

学校は第一に子ども達の安全・安心を最優先に教育活動を行うところであり、学校・地域・家庭の皆様との共通理解とご協力を得た上で行っていくべきと考えています。子ども達の安全・安心は、学校統合の有無に関わらず教育活動の根本であり、原点であることから、今後もその点を踏まえながら、議論を進めていきたいと考えています。

(質問 21)

答申が出てから3ヶ月が経っていますが、今後の方向性が主として答申の内容のまま検討されているのか。パブリックコメント以外のいろいろな問い合わせもあると思いますが、市としての方向性は変わったのか。

(回答 21)

学校規模等に関する適正化の基本的な方針につきましては、今回の説明会により皆様方から頂いた様々なご意見等を参考にしながら取りまとめていく予定です。

(質問 22)

パブリックコメントの中で、学校は、避難所や地域のコミュニティの活動拠点ということ踏まえ、地域の方々のご意見もお聞きし、別途検討する必要があると答えられています。今後、市として説明会の場で意見を聞かれるのか、それ以外に別に意見を聴く場を設けていただけるのかどうか。

(回答 22)

統合後の学校の活用方法については、保護者や地域の方々のご意見もお聞きし、決定していくものと考えており、統合に向けた手続きと合わせて、別途意見をお聴きする場を設ける必要があるものと考えています。

(質問 23)

答申を3月にまとめられた結果で、校区のほぼ中央に位置している。保有教室に余裕があり増築の必要がない。中宮北小は高陵小から分離独立した。これだけで決定した根拠が我々にはわからない。

(回答 23)

適正化の方策については、審議会において5つの視点により、総合的に判断し検討されたものです。その中でも学校の沿革については、重要な要素の一つとして検討されています。また、高陵小の位置関係については、両校の通学区域を合わせた東西域のほぼ中間に位置しており、渚南町からは坂を上りきった場所となっています。

(質問 24)

統合の3年前を目途にということだが、審議会の中では、平成31年度を目途に統合すると事務局でもその方向で進んでいると、平成27年6月に説明されています。決定ではないと思いますが、平成31年まではもう3年を切っています。という中で、オープンな形で3年前までに進めていくということは矛盾しているのではないのでしょうか。結局統合の話がどこまで進んでいるのかわかりません。一体どこまで進んでいるのか、その内容をオープンにしていきたい。

また、高陵小の崖の点で、安全面で問題はないとされていますが、表面から水が流れてきます。水が流れたらその下の段で雨水をすって横に流していくので安全だとの説明ですが、がけ崩れは表面の問題だけではありません。中に水がしみこんで、崖の全体が崩れるのですが、その所はどう考えておられるのか、お聞かせいただきたい。

(回答 24)

平成27年6月の審議会においては、統合時期について「今の時点で決議したら、一番早くても平成31年の統合という理解でよいのか。」という確認がなされたものです。今後、学校規模等の適正化に関する基本的な方針の取りまとめの後に、学校統合に向けた実施プラン等を作成するとともに、(仮称)統合協議会を設置し、概ね3年間をかけて学校統合に関する諸課題について協議・検討を行うものと考えており、31年度が目途として決定されているものではありません。

また、法面の安全性につきましては、表面水の対策としまして学校側からの雨水排水を法面の中腹に排水施設を設置することにより、排水機能を確保し適切に雨水排水することにより、法面の安全性を確保するものです。

(質問 25)

高陵小へ統合となった場合、この中宮北小の跡地に通学路を設置してもらえるのかどうか。

(回答 25)

中宮北町地内から高陵小までの通学路として、東西間の横断が一つの課題であることは認識しております。その対策方法として、ご提案いただいた中宮北小の跡地に通学路を設置することに関しましては、跡地の利活用の課題にも関わってくると思いますが、

通学路の適正な距離と安全性を確保する観点から教育委員会としましても検討を進める必要があるものと考えています。

(質問 26)

高陵小に通学する児童のマックスの距離と中宮北小へ行く児童のマックスの距離をそれぞれ出してください。

(回答 26)

別添資料 3 のとおり。

(質問 27)

地図上に、こういうリスクがあります。例えば、交差点がここにあつてとかを地図上におとしたものでないと通学路としての安全性は認められない。通学路は距離だけで決めるものではない。

(回答 27)

別添資料 4 のとおり。

(質問 28)

学校規模等適正化基本方針の取りまとめ、ということになっていますが、統合協議会を設置しても、基本方針ですので、変えることはできないのではないですか。統合協議会を先につくっていただいて、やってもらうという方向性が必要ではないでしょうか。

(回答 28)

(仮称) 統合協議会の設置については、学校規模等適正化基本方針を取りまとめた後に、当該学校の児童生徒や保護者、地域コミュニティなどの理解と協力を得たうえで設置できるものと考えています。

(質問 29)

関西外国語大学は大変な利害関係があります。利害関係者を会長に入れたような教育委員会の姿勢、その根拠についてお尋ねしたいと思います。

(回答 29)

利害関係があるとは考えておりません。また、会長職に関しましては、委員 14 名による互選により選任されたものです。

(質問 30)

体育館の避難時に、中宮北小校区は、4,100 名程度、高陵小校区は 4,400 名程度お住まいと聞いています。それが一つの建物の中に収容できるのか。

(回答 30)

中宮北小の跡地の利活用に関わる問題ではありますが、避難所の在り方につきまして、保護者や地域の方々のご意見もお聴きしながら、市としての方策を検討する必要があるものと考えています。

(質問 31)

法面のことで、その一体全てを工事したのなら安全性は保たれるが、一部が途切れておるようでは、そこを境界として土砂崩壊が起こるとおっしゃっておられます。そのような考えも全て考慮したうえでのご回答であったのか。

(回答 31)

高陵小西側の法面につきましては、対策工事は完了しており安全性は確保できているものと考えています。また、小学校前を除く周辺地域は、国土交通省の実施要領に基づき大阪府が指定した土砂災害危険箇所として、大阪府によるハード整備が行われてきました。更に、平成 27 年度には「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」の指定を行うことにより、法面に隣接する家屋に対して、家屋の防護費や移転費の一部を助成する制度を取り入れています。その際、傾斜角度が 30 度以上であることなどが要件として挙げられていますが、高陵小の法面は該当していません。

(質問 32)

中宮北小の北側の跡地を高陵小と土地交換し、中宮北小を増築した後に高陵小を吸収するという案もある。

(回答 32)

中宮北小北側の旧近畿財務局所管の公務員宿舍跡地につきましては、本市上下水道局が施設を更新するための用地として、既に取得することが決まっています。

(質問 33)

統廃合に際して、枚方市として教員数はどれくらい減らそうとしているのか。

(回答 33)

枚方市の教職員の多くは、「府費負担教職員」であり、大阪府が人件費を負担しています。仮に統合した場合でも、児童・生徒数により学級数が決まり、その数によって教員配置が決定しますので、統廃合を理由として教職員の数が減るというものではありません。

(質問 34)

地域住民の理解と協力を得ると答申には書かれていますが、何をもってこれらを評価されるのでしょうか。

(回答 34)

教育委員会としましては、保護者や地域の方々のご意見をお聴きし、課題解決に向けた協議を重ねながら理解と協力を求めていきたいと考えていますが、最終的な判断に関しましては、保護者や校区を代表する P T A 協議会や校区コミュニティ協議会とも相談しながら、決めさせていただきたいと考えています。

(質問 35)

答申 10 ページ「ア. 学校の沿革と現状」のところで、「両校とも適正規模の範囲内になる程の児童数の増加は見込めません。」と切り切られていますが、その根拠はなんなのでしょうか。



(回答 35)

児童数の推移に関しましては、平成 27 年 5 月 1 日現在における 0 歳児から 5 歳児の住民基本台帳人口において、平成 33 年度までの推計を行っています。また、それ以降に関しましては、平成 26 年 1 月に発表された「枚方市人口推計調査報告書」の結果に基づき、平成 55 年までの児童数の推移を 5 年刻みで算出したものです。また、児童数が大幅に増加するような宅地開発は予定されていません。

(質問 36)

文部科学省が昨年出している統廃合の手引きによると、「12 学級以下を全て小規模校と位置づけるのではなく、それぞれの児童数やクラス数によって、総合的な検討が必要だ」と書かれています。また、統廃合の手引きによると、中宮北小学校に当てはまるのは、9 から 11 学級のところで、統合のことには触れていませんが、高陵小は 6 学級のところに当てはまり、統合等により適正規模になるよう速やかに検討が必要だと書かれています。児童数からいっても中宮北小は高陵小と比較しても、児童数はおおよそ 100 人、1.6 倍も多いですし、審議委員会としてこれ（児童数）を検討の対象に含めていないことに疑問を感じます。

(回答 36)

審議会においては、文部科学省の手引きも参考として報告しています。また、適正化方策の検討にあたっては、学校統合の検討の対象となる学校ごとに当該校区を隣接する学校との統合方策案について、学校規模や施設規模などについて比較評価したものです。検討対象校の条件として、現在または平成 35 年度までの推計において小規模校となる小学校及び中学校で、かつ平成 55 年度までの将来推計においても、児童生徒数の増加により適正規模の範囲内になる見込みがないこととしており、中宮北小、高陵小ともに要件に該当していることから、今回の答申として提言されたものです。

(質問 37)

5 つの視点からと言われてはいますが、その中に子どもの安全という視点が含まれていないのはなぜでしょうか。

(回答 37)

5 つの視点の中には、通学路の安全性や子どもの生活圏の確保として、防災・防犯上の課題の観点からも検討が行われています。

(質問 38)

統廃合するという場合、中宮北小とどちらに統合校を設置するか。より安全な土地を選ぶのが当然であると思います。

(回答 38)

高陵小の立地条件につきましては、特に危険な箇所ではないと判断しています。また、法面の排水機能については、適切な維持管理を行っていきたいと考えています。

(質問 39)

審議会で統合校がこちらに決まりました、それを統合協議会にお伝えして、そこで話し合われた後、それが変わるということもありえますと回答しておりますが、それは先ほど回答いただいた点と違うのですが、どうなんですか。

中宮北小が小規模校なのですね。小規模校はメリットもあるけれど、デメリットもあると結構強く言われていて、小規模校と言われているんですが、全然困っていません。中宮北小が小規模校と言われているこの学校の課題はなんですか。

(回答 39)

学校統合についての具体的な内容につきましては、実施プランの中でその方策や実施時期などを明確にしていきたいと考えています。また、(仮称)統合協議会では実施プランの内容に基づき、学校統合に向けた諸課題について協議・検討を行う場でありますので、今後は、実施プランの作成に向けて、幾度となく保護者や地域の方々に十分な説明を行いながら、市の考えにご理解いただけるよう取り組んでいきたいと考えています。審議会では、12~24 学級を下回る学校を小規模校とされており、現在 11 学級の中宮北小は小規模校になります。

また、中宮北小の小規模校としての課題についてですが、学校運営の視点では、担任外や加配教員の絶対数が少なく、事故や怪我、行事や個別の支援が必要な児童に対応できる教員の数が限られてしまいます。また児童の視点からは、クラス替えができないことで人間関係が固定化されやすいことです。更に保護者の視点からは、単学級の保護者間でトラブルがあった時に困る。クラス替えのできる学校を希望しますとの声も届いています。

(質問 40)

学級数の中に支援の子は含まれませんよね。トータルの支援学級が増えていくのにトータルの児童数には表されないとはどういうことですか。支援学級の児童の籍を普通学級に入れるか入れないかで、普通学級が一クラス増えるか増えないかということになる。それを加味しているのか。

(回答 40)

全児童数には支援学級の児童数も含まれています。また、教室数についても支援学級数を別途考慮したうえで、必要な教室数を算定しています。

(質問 41)

さきほども中宮北小の課題があるとはおっしゃらなかったのですが、課題はないのにあなたたち一緒になりなさいと一方的に言われても納得できない。

(回答 41)

小規模校の課題については、質問 39 でお答えしたとおりです。学校が統合し適正規模校になることで、課題を解消しながら、よりよい教育環境を整備していくことが必要であると考えています。

(質問 42)

子どもや親の目線から見た課題はどう認識されているのですか。子どもや親の目線から見て、中宮北小の課題はどのように認識されているのですか。

(回答 42)

子どもは与えられた環境の中で柔軟に対応する力をもっていると考えられますので、小さい学校としての課題は感じていないかもしれません。保護者の視点から今現在課題がないと認識されていることは、とてもありがたいことです。ただ、現在でも単学級の学年があることや将来的にもクラス数が減ることが予測されることから、できるだけ早期に対策を講じる必要があると考えています。

(質問 43)

小規模校は活気がない。小規模校の子は元気がないと言われてしまう。それを具体的に言って欲しい。

(回答 43)

小規模校で学んでいる児童にも元気な児童もおとなしい児童もいますから、個々の児童については、学校規模の大小とは関係ないかもしれません。学校全体としては、行事等の際に受ける印象として児童数が少ないことで、活気がないと感じる方がおられるということです。

(質問 44)

小規模校のあり方イコール統合という話になってきているが、そうではなくて、小規模校にはそれなりのメリットやデメリットもあります。もし、デメリットということならば、どのような努力をしたら、それが改善されるのかは何も検討されていないと思う。

(回答 44)

メリットを生かしながら、デメリットを改善する取り組みの一つとして、高陵小学校と合同で音楽・演劇鑑賞会を実施しておられることは承知しております。しかしながら、小規模校については単学級の学年があることから、統合により適正規模が保持されることが、子ども達にとってメリットになるものと考えています。

(質問 45)

保有教室数に関して、学校規模等適正化の答申というのは、理解しがたくわかりにくいです。統合校は高陵小におくのではなくて、中宮北小におくべきだと思います。答申を白紙撤回していただいて、再度検討していただきたい。

(回答 45)

保有教室数については、普通学級数や支援学級数に加え、少人数学級を行う教室などを含めた必要教室数を充足できるかどうかについて検証したもので、審議会において適正化方策の5つの視点の中の重要な要素の一つとされたものです。

(質問 46)

高陵小と比べると支援学級の点で言えば、中宮北小の方が数段手厚い施設として整備されている。支援学級を全く無視した方針をとっている。

(回答 46)

高陵小におきましても支援学級に対する施設は整備されており、決して支援学級を無視した方針をとっているものではありません。

(質問 47)

留守家庭児童会室については、中宮北小は教室から雨に濡れずに、留守家庭の教室まで行くことができる。配慮のいる児童の移動って大変。そういう視点を加味していない。

(回答 47)

高陵小における留守家庭児童会室につきましては、一定の課題があることは認識しています。今後、仮に統合校を設置する際には、課題解消に向けた検討を行っていく必要があるものと考えています。

(質問 48)

どうして高陵小に統合するのか。という点について積極的な論拠が示されているとは言えない。

(回答 48)

審議会において適正化の方策については、学校規模や施設規模など5つの視点により、総合的に判断して検討された結果、高陵小敷地へ統合校を設置することが望ましいと提言されたものです。

(質問 49)

少なくとも中宮北小と高陵小の統合に関しては、関西外大の人が会長（審議会）となった答申を持って、議論の前提にすることはできないのではないか。問題になっているのは、利害関係のある関西外大の教授が会長である審議会の答申そのものに瑕疵があるのではないか。

(回答 49)

審議会においては、市内 45 小学校及び 19 中学校すべてを対象に公正・公平な立場で審議をしていただいたものと考えており、答申に瑕疵があるとは認識していません。

(質問 50)

適正化対策の検証結果比較表というものがあり、学校と地域の連携の核となるものにコミュニティの関係のことが一つも入っていません。こういうことも比較表の中に入れていただき、まとめていただければ内容的にもっとわかりやすいと思いますので、教育委員会の中で考えていただきたい。

(回答 50)

校区コミュニティ協議会の活動の重要性については、十分認識しています。仮に学校統合がされた場合であっても、引き続き、学校と地域の連携の核となるものであると考えています。

(質問 51)

統廃合が決まった場合のスケジュールを教えてください。例えば〇〇を設置してから×年後になるなど。

(回答 51)

実施プラン等の作成に合わせて(仮称)統合協議会が設置されてから、概ね3年間をかけて統合に関する諸課題について、協議・検討することと提言されています。

(質問 52)

小学校の統廃合は学校だけの問題ではなく、コミュニティにもかかわる問題です。そのことについてはどのように考えているのか。

(回答 52)

校区コミュニティ協議会につきましては、小学校区が基本となりますので、仮に学校が統合された場合には新たな小学校区に基づくものと考えています。しかしながら、その実施時期などについては、それぞれの校区コミュニティ協議会において検討されるものと認識しています。

(質問 53)

統廃合後の学校跡地問題。

(回答 53)

学校統合後の跡地の利活用につきましては、避難所の在り方も含めて、保護者や地域の方々のご意見もお聴きしながら、市としての方策を検討する必要があるものと考えています。

(質問 54)

答申が非公開なのはなぜ。

(回答 54)

答申については、ホームページにおいて公開するとともに、市役所庁舎本館・別館、各生涯学習市民センター、各支所などに備え付けています。

また、審議会につきましては、12回の開催中6回目以降を非公開としました。これは、適正化の具体的な方策を定義するにあたり、自由かつ活発な議論を保障する観点から、枚方市付属機関条例の規定に基づき非公開とすることを委員の総意により決定されたものです。

(質問 55)

当事者の声をどう反映するのか。

(回答 55)

現在、検討対象校すべてにおいて説明会を実施する予定です。その中で保護者や地域の方々からいただいた様々なご意見等を踏まえ、学校規模等適正化に関する基本的な方針を取りまとめたいと考えています。

(質問 56)

答申案が偏っている。

(回答 56)

審議会においては、計 12 回の審議会を開催し、公平・公正な立場でそれぞれの専門的見地から様々な審議が行われ、また、答申（案）についても市民アンケートを実施するなど、適正にとりまとめられた答申であると認識しています。

(質問 57)

高陵小をどうするが検討課題。

(回答 57)

高陵小につきましては、現在 1 学年に 1 学級、また、中宮北小につきましても 11 学級であり、両校とも既に小規模学校となっていることから、実施時期については「できる限り早期」とする必要があるものと提言されました。

(質問 58)

中北小校区に新校を設置すべき。

(回答 58)

審議会の答申においては、5 つの視点より総合的に判断した結果、統合校を高陵小敷地内に設置することが望ましいと提言されました。

(質問 59)

関西外大の今後土地買収計画などを調べて。

(回答 59)

関西外国語大学のホームページには、御殿山キャンパスに関する概要が掲載されておりますが、それ以降の計画につきましては掲載されていません。なお、本市において土地買収計画については把握しておりません。

(質問 60)

分校が、もともとの本校へ統合する、という考え方は、政治的であり、合理性を欠くことが多々ある。沿革という視点を機械的にあてはめ、他の視点と同じ重みで評価することも合理性を欠く。児童数においても、将来的にも多い方の学校を無視して、沿革の視点だけでは、統合する理由にはならないのでは。

(回答 60)

学校の沿革については、それだけで、統合の是非を決定するものではないですが、検討に係る視点の一つと考えており、5 つの視点から総合的に判断をさせていただいています。

(質問 61)

高陵小校区は、高齢人口の割合が他地区に比べて高く、今後も子ども人口の比重は、中宮北小校区が高い。それなのに、想定される新学区の中心というだけで、高陵小に統合するというのは、納得できない。

(回答 61)

高陵小校区の高齢者率が高まっている状況は認識しておりますが、比較・検証については、5つの視点から総合的に判断させていただいています。

(質問 62)

児童数の多い学校が少ない学校へ統合するのは、通学の安全性など大きなリスクがあると思うが、沿革等から高陵小へ統合するほうが望ましいと判断された理由について教えて欲しい。

(回答 62)

児童数と通学距離との相関関係については、お示しできておりませんが、通学の安全性については、統合の有無に関わらず、最優先で取り組む必要があります。また、沿革のみの視点で判断したのではなく、5つの視点から総合的に判断させていただきました。

(質問 63)

体育館、児童会施設についても、学校敷地の隅（西側斜面寄り）に建てられており安全上の問題があるのでは。

(回答 63)

法面に関しましては、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておりませんので、敷地の安全性については、問題はないと考えています。また、体育館につきましても、避難所として活用するにあたり、問題はないと考えています。

(質問 64)

高陵小の校地の西側は急な斜面になっておりその斜面で工事をする際には規制がかかる。

(回答 64)

高陵小の敷地において、校舎を建設するにあたり、斜面があることによる規制はかかっていません。

(質問 65)

法面对策の科学的根拠があるのですか。

(回答 65)

大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、又法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水については、適切な排水ができるよう整備しています。また、新たな「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。

(質問 66)

高陵小を建て替えする場合は、大規模な法面整備工事が必要で、費用対効果の評価がない。

(回答 66)

仮に建て替えする場合においても、大規模な法面工事は必要ないものと考えています。

(質問 67)

利用可能な校地が更に減る可能性がある。

(回答 67)

校地を広げる必要がありませんので、大規模な法面整備を行う必要はないと考えており、校地が減ることもないと考えています。

(質問 68)

校地の選定は安全性の観点と経済性の両面から検討しなければならない。費用がかかる案は手抜きになりがちであり、安全確保が難しいのでは。

(回答 68)

法面の安全確保につきましては、U字側溝の清掃や補修を行うなど、適切な維持管理に努めてまいります。

(質問 69)

関西外国語大学の子どもの通学時の安全について (3,000 人)

(回答 69)

関西外国語大学が、平成 30 年 4 月に開校した際の児童の通学時の安全性については、通学時間内の状況を確認にしたうえで、教育委員会としても児童の通行に一定の配慮をしてもらえよう、関西外国語大学に対して働きかけを行っていきたいと考えています。

(質問 70)

「いきいき広場」の活動は年 48 週あるが、枚方市内 45 小学校のうち、48 週活動している小学校は何校あるのか。

(回答 70)

平成 27 年度実績では、6 つの小学校で 48 週実施しています。また、平成 28 年度計画では、10 小学校で 48 週の実施予定を立てています。



# 枚方市45校区図



1

## 校区面積

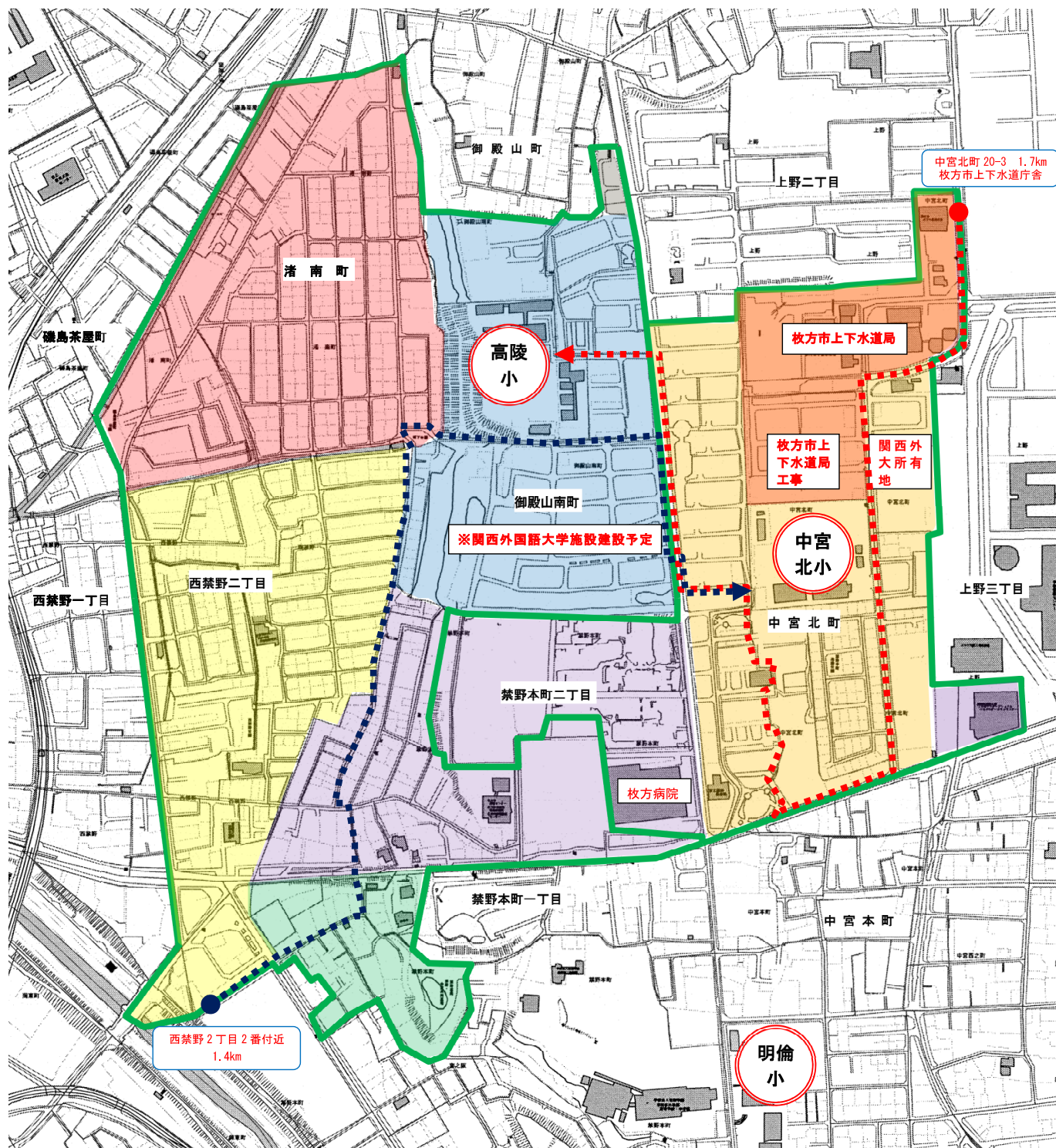
校名	校区面積 (㎡)	校名	校区面積 (㎡)	校名	校区面積 (㎡)
中宮北	255,303	五常	852,512	蹠跣西	1,300,000
高陵	507,846	小倉	881,912	招提	1,310,000
開成	569,572	樟葉	894,873	菅原	1,350,000
平野	644,115	蹠跣	937,090	枚二	1,370,000
明倫	646,083	殿二	954,745	桜丘	1,430,000
川越	651,309	樟葉南	954,921	藤阪	1,510,000
蹠跣東	693,938	山田	987,376	山之上	1,580,000
樟葉北	764,602	交北	1,020,000	中宮	1,600,000
西牧野	765,294	樟葉西	1,050,000	田口山	1,610,000
伊加賀	776,724	磯島	1,130,000	船橋	1,720,000
香陽	787,046	枚方	1,140,000	長尾	2,300,000
殿一	802,698	牧野	1,150,000	津田南	2,480,000
西長尾	815,551	春日	1,220,000	菅原東	2,720,000
山田東	822,920	香里	1,240,000	津田	2,730,000
東香里	827,332	桜丘北	1,280,000	水室	8,950,000

## 高陵小学校区の坂上・坂下将来推移

	坂下	坂上	合計
H28	130	15	145
H30	128	15	143
H35	130	15	145
H40	113	13	126
H45	94	11	105
H50	69	8	77
H55	54	6	60

禁野本町1丁目（1番から6番までに限る。）	坂下
禁野本町2丁目（11番、12番、13番5号から11号まで及び14号並びに16番を除く。）	坂下
西禁野二丁目	坂下
御殿山町（15番64棟及び65棟に限る。）	坂上
御殿山南町（1番2号を除く。）	坂上
渚南町（45番及び46番（10号以上に限る。）を除く。）	坂下

# 高陵小・中宮北小校区地図

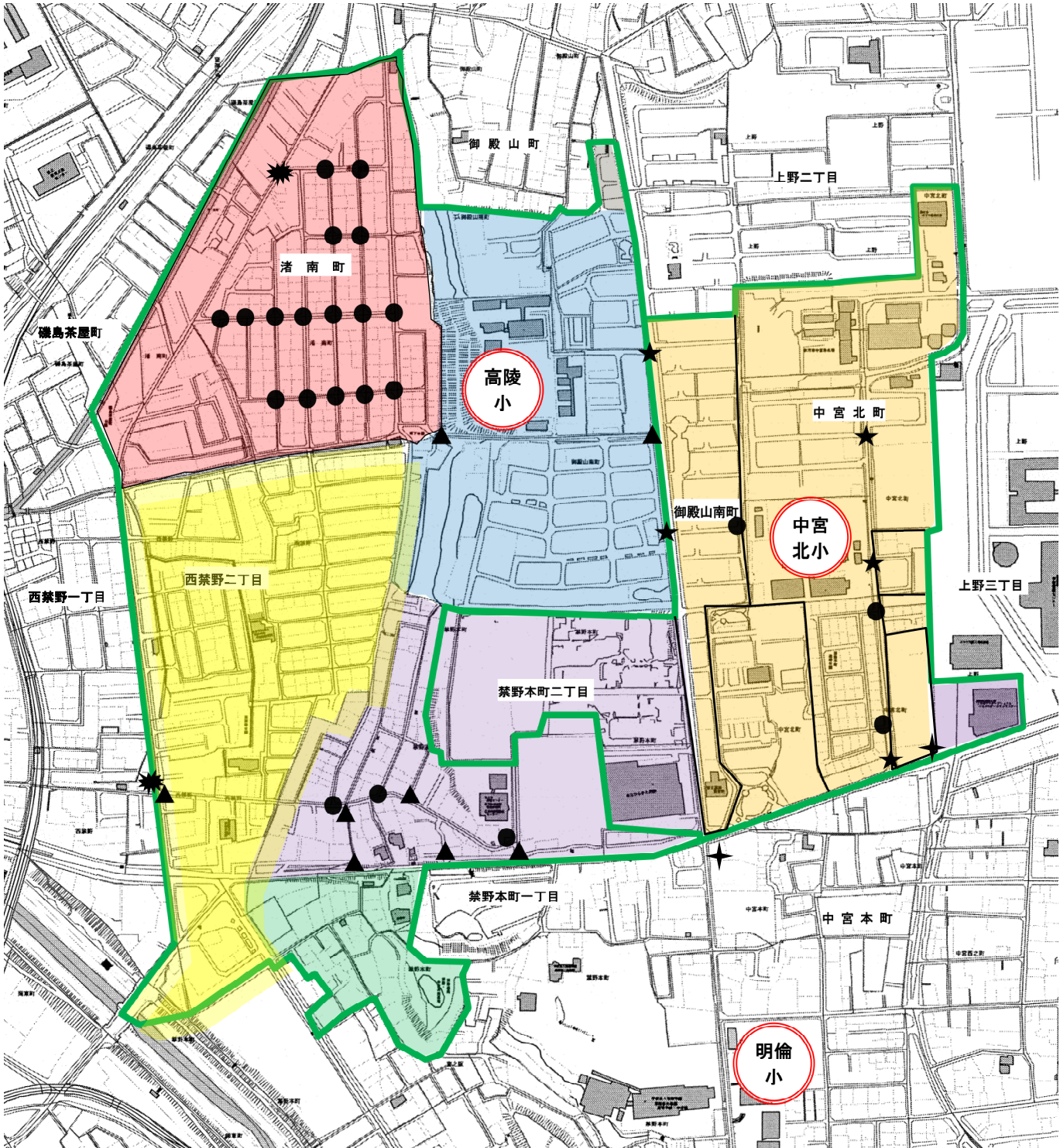


高陵小学校区	禁野本町1丁目（1番から6番までに限る。）、禁野本町2丁目（11番、12番、13番5号から11号まで及び14号並びに16番を除く。）、御殿山町（15番64棟及び65棟に限る。）、御殿山南町（1番2号を除く。）、渚南町（45番及び46番（10号以上に限る。）を除く。）、西禁野2丁目
中宮北小学校区	上野3丁目（4番に限る。）、禁野本町2丁目（11番、12番、13番5号から11号まで及び14号並びに16番に限る。）、中宮北町

※距離は、徒歩経路による。

※距離は、小数第二位を繰り上げ。

# 高陵・中宮北校区 交通安全等マップ<sup>o</sup>



(危険箇所等の凡例)

<p>高陵小学校区</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ …交通事故があった場所</li> <li>● …信号もなく、見通しの悪い場所。車から見て冷やりとした危険箇所</li> <li>▲ …車が急に曲がったり出てくることある。道幅が狭く車やバスがよく通る等の危険箇所</li> </ul>
<p>中宮北小学校区</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ …信号や横断歩道のある所</li> <li>★ …交番、コンビニエンスストア (子ども110当番の店)</li> <li>● …信号もなく、見通しの悪い場所。</li> </ul>